

<農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例>

○集落営農組織を中心とした地域活性化を目指す

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	広島県竹原市小梨町 小梨地区中山間地域会			
協定面積	田 (90%)	畠 (10%)	草地	採草放牧地
17.9ha	水稻	野菜、イチジク	-	-
交付金額	個人配分			
331万円	共同取組活動 (55%)	役員・水路・農道管理報酬 多面的機能の増進(畔畔へ芝桜の植付け)	15%	45%
		農地維持管理活動	10%	
		地域連携活動・集落法人育成活動	5%	
		鳥獣害防止対策	15%	
協定参加者	農業者	44人	開始：平成14年度	

2. 取組に至る経緯

本集落では、農業従事者の高齢化や後継者の減少により、農用地の維持管理の継続が困難となることなど課題となっています。第2期対策では交付金を活用し、コンバインなど農業用機械の共同化を進め、農業生産性の向上を図り、農業生産と農用地の保全に取り組んできました。第3期対策においては、更なる農業生産性の向上を図るとともに、地域活動の核となる組織が求められており、集落営農の組織化と農用地の保全を図るため集落協定を締結しました。

3. 取組の内容

- (1) 第2期対策では、集落営農組織の構築に向けて検討会や学習会、視察研修会などを行っていました。このことを踏まえ、農事組合法人に向けて検討を重ね、平成22年11月7日に約7.9haを利用集積して『農事組合法人サンファームおなし』の設立総会の開催に至りました。この組織が中心となって、地域活動やイベントを開催し地域活性化を図るとともに、農業生産活動を持続可能なものへと転換していきます。
- (2) 農用地法面の管理軽減と景観形成のため、芝桜の法面植栽を行っていきます。
- (3) 鳥獣による農作物への食害が深刻化しており、第2期対策からの継続事業として、地域全体の農用地を電気柵等で囲い、鳥獣被害から農作物を守り、農業生産意欲の向上を図っていきます。



【小梨集落の様子】



【農事組合法人設立総会の様子】

[集落の将来像]

- ・「サンファームおなし」の名のとおり明るい地域づくりを目指し、農事組合法人を中心とした地域農業の実践と地域活性化の実現。
- ・高齢者の労働負担、生産コストなどの軽減を考慮した地域の景観形成の実現と持続可能な農業の実践。

[将来像を実現するための活動目標]

- ・農事組合法人への農地集積及び農作業の委託による効率的農業の実践と後継者育成
- ・農事組合法人が中心となった地域活動の活性化と推進
- ・芝桜の法面植栽等による法面管理軽減及び景観形成
- ・集落全体で鳥獣害被害対策に取組み、持続可能な農業生産体制を確立

[活動内容]

農業生産活動等	多面的機能増進活動	農業生産活動の体制整備
農地の耕作・管理 (田 16.1ha, 畑 1.8ha) 個別対応 (H23年以降から うち 7.0ha は法人対応)	芝桜の法面植栽による景 観形成と管理負担軽減 共同取組活動	扱い手集積化 (農事組合法人への農用地集積) (現状 0 ha, 目標 3.6ha 以上) 共同取組活動
水路・農道等の管理 ・水路 年2回 清掃・草刈り ・道路 年2回 草刈り ・ため池 年1回 草刈り	共同取組活動	加算措置としての取組等
農地法面の定期的な点検 (年2回及び随時)	共同取組活動	小規模・高齢化集落支援加算 (田 2.4ha)
共同取組活動	共同取組活動	法人設立/加算[農業生産法人] (平成 22 年 11 月に集落法人設立)
		共同取組活動

4. 今後の課題等

第1期対策から9年目を迎えて、農業用機械の共同利用や水路・農道等の管理を集落全体で協力し合うことによって、耕作放棄地の発生を防ぐことが出来ました。また、地域内外を問わず世代間交流や祭りなど積極的な地域活動が行われるようになり、着実に地域の活性化につながっています。

集落営農の組織化を果たし地域農業を実践する土台は作りましたが、地域の高齢化や人口減少が進むことが予想され、今後は更なる農業生産性の向上や労働負担の軽減、将来の後継者育成に努め、地域農業の維持と農地保全、地域活性化につなげていく必要があります。

[第2期対策の主な成果]

- 機械・農作業の共同化（当初：コンバイン2ha 目標：コンバイン4.1ha 実績：コンバイン5.9ha）
- 非農家・他集落との連携（都市住民19名と連携。水路・農道の管理や農作物の収穫を体験）
- 共同機械購入（当初：コンバイン0台、石抜き機0台 目標：コンバイン1台、石抜き機1台 実績：H21 コンバイン1台、H17 石抜き機1台）